

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 30

事業所番号	2691600114		
法人名	有限会社 康生会		
事業所名	グループホーム 三愛の里うつね 2階		
所在地	〒621-0801 京都府亀岡市宇津根町土井ノ内48番地1		
自己評価作成日	平成31年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 野の花		
所在地	京都市左京区南禅寺下河原町1番地		
訪問調査日	平成31年2月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○個々が情報を発信し、その情報を共有する事でチームケアの強化を図る。</p> <p>○いろんな視点から目配り、気配り、心配りできめ細かい対応を行えるように心掛けている。</p> <p>○職員の育成、スキルアップに力を注いでいる。(職員間でのケアの確認、外部研修への参加など)</p>
--

1階ユニットに同じ。
------------

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事務所内に掲示し、職員が意識できるように努め、毎週月曜日の申し送り時に唱和し、周知するようにしている。	以下の項目すべて1階ユニットに同じ。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・買い物や訪問理美容などで、地域の店舗を利用している。 ・外部ボランティアに依頼し、施設内にて催しを実施している。(将棋・寸劇など)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・認知症などの相談を受けている。 ・相談があった場合はできる限り分かりやすく説明を行うよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・会議で出された意見をサービス向上に活かすよう心掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議などで協力関係を築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・利用者の納得できる説明、声かけの工夫によってスピーチロック防止に努めている。 ・定期的に研修を行い、身体拘束についての知識と理解を得るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・職員間で気付いたことは報告・連絡・相談を行い、見過ごすことがないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・OJTでは実施に至っていないが、外部研修で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・分かりやすい説明を心掛け、理解と納得をさせていただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関先に意見箱を設置し、いつでもどなたでも意見を伝えていただけるような環境整備に努めている。 ・家族会(年2回)を開催し、そこで意見を聞き、意見交換や集約に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議(ユニット会議)を毎月開催。職員の意見や提案を聞く機会を設け、全体で共有し、日々の業務に反映させている。 ・毎月運営会議を開催し、そこでの意見を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・必要な資格や経験などは常に職員個々がチャレンジしやすいような環境作りに努め、各自が向上心を持って働けるよう条件整備に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・業務で役割分担を行い、自身が責任を持って業務にあたる機会を設けている。 ・法人内研修、外部研修への参加機会を持てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム協会、グループホーム連絡会に加入しており、その他同業者間で行う研修や交流会、催しには積極的に参加するようにし、情報収集やサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人の立場になって関わり、困っていることや不安なことがあれば、寄り添って話をくよう心掛けている。 ・家族のような温かくて安心できるような雰囲気作り、関係性を意識しながら関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前から本人の普段の様子や問題、今後の課題を聞き、入所後のケアに活かすよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族が今必要としていることや、求めていることを聞き、職員間で話し合うことで対応の提案ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家族のような温かい雰囲気を大切にしながらコミュニケーションを取り、また本人を尊重することで関係作りを構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・本人と家族の絆を大切にするため、家族の支援が必要な場合は積極的に協力していただき、職員と連携を取りながら、本人を支えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会、外出、外泊などで家族や馴染みの人と関われる機会を積極的に提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	・利用者同士の関係を把握し、関わることで 利用者の想いを汲み取るようにしている。 ・レクリエーションに工夫を凝らし、利用者同 士が自然と取り組めるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後も本人、家族の要望に応じて、 できる限りの支援を行えるように努めてい る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	・水分が取りにくい利用者には手作りのゼ リーを提供するなど、本人の立場に立って 考えるようにしている。 ・日々、本人の希望や意向を把握してケア に活かすよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	・入所前のアセスメントを確認し、情報の把 握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりの過ごし方や現状については朝 夕の申し送りや記録などで職員が全員把握 するよう努めている。 ・体調不良や状態変化の際には別に記録表 を作成し、状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	・家族の意見を踏まえ、月1回のカンファレン スやユニット会議で話し合い、計画作成を 行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	・特記事項は必ず、業務日誌に記載するよ うにしている。また、職員間で情報を伝達共 有する場合は、別に連絡ノートを活用してい る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・職員間や家族と積極的に話し合い、柔軟かつ迅速な対応ができるよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・一人ひとりが安全で自分らしい生活が送れるよう、地域資源を一つの手段として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・基本は訪問診療にて、本人や家族の希望を聞き入れながら適切な医療を受けられるよう努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の記録で互いに情報共有し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。 ・カンファレンスにて話し合う機会を設け、積極的な意見交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院と連携を取り、情報共有を行うことで入退院が円滑に進むよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・職員が医療的な研修に参加したり、家族との話し合いの中で本人や家族の意向に沿った支援を心掛けている。 ・終末期ケアについて、家族に対して直接説明と書面で内容を明記し、事前確認を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・日々の体調管理に努め、OJTや外部研修(救命講習)の機会を設け、実践力を養うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回消防署指導の下、職員、利用者参加の避難訓練を行っている。また、火災だけでなく、事業所の立地から水害の危険性が高いため、水害時の訓練も実施している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・入室時には必ず、ノックもしくは声掛けを行っている。 ・利用者一人ひとりの人格を尊重した声掛けやケアを行うよう心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・朝の水分補給の際、本人が選べる場面を作り、希望される飲み物をできるだけ提供している。 ・本人の意思を尊重するように心掛けており、自己決定できるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの状態や思いに配慮し、その日その時の本人の気持ちや生活歴、趣味など、その人に合った過ごし方をしてもらえよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・訪問理由で本人の希望を聞くようにしている。 ・季節に合った服装ができるよう支援している。 ・身だしなみや整髪など、自身でできる人は声掛けを行っている。介助が必要な方は職員が行っている。 ・入浴後の爪切りを実施。白癬などで職員が難しい場合は看護師に依頼している。 ・日頃からおしゃれを楽しんでもらえるよう、化粧品などの使用、職員によるマニキュア施行などをコミュニケーションを兼ねて行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の献立には本人の嗜好や季節の食材を取り入れるなどして工夫している。 ・誕生日などの行事食の際には本人の希望を確認し、提供している。 ・食事を楽しんでいただけるよう、季節感のある料理を提供している ・その人ができる範囲で食事の準備や後片付けを職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・水分量や食事量を記録し、摂取量の把握に努めている。 ・水分摂取の機会を増やし、本人が好まれる飲み物で小まめな水分補給に努めている。 ・バランスの取れた食事メニューを心掛け、塩分や糖分については特に意識するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・口腔内の汚れや口臭予防として毎食後口腔ケアを実施。清潔保持に努めている。 ・介助の必要な利用者にはきちんと支援し、自立した利用者には口腔ケアの大切さをしてもらい、きちんとケアできるよう説明している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表を用いて時間配分を確認し、定期的に声掛け、トイレ誘導を行っている。 ・オムツの使用量を減少できるように職員間で検討しながら行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・個々の排便状況をチェック表を用いて確認し、定期的に排便できるよう心掛けている。 ・小まめな水分摂取や食事のバランスを考えて提供するよう努めている。 ・体操やレクリエーションに参加していただき、運動することで予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・利用者と1対1で話せる大切な時間なので、一緒に歌を歌ったり、昔の話をするなどして、楽しんでもらうようにしている。 ・入浴が億劫な利用者には言葉かけなど工夫を凝らした入浴支援を行っている。 ・入浴チェック表を使用し、その日入浴される利用者を事前に確認できるようにし、希望の時間に入浴できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日々の体調など、様子観察を行い、安心して眠れるような環境作りに努めている。 ・一人ひとりのリズムに合った就寝時間で休んでもらっている。 ・10日に一度の定期的な寝具交換を行うことで清潔保持に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・用法や容量を確認し、変更がある時は連絡ノートに記載し、周知できるようにしている。 ・服薬時は職員間でダブルチェックを行い、誤薬のないように努めている。 ・服薬後の袋を一日分保管し、服薬確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・利用者ができることは、できるだけしていただくように配慮している。 ・誕生日には本人の意向を汲んだ食事メニューにしている。 ・ユニットに日めくりカレンダーを設置し、毎日朝礼で利用者と共に日付を合わせ、その日の出来事について話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紅葉狩りや花見など、季節ごとの外出を行っている。</li> <li>・定期的(隔月)に外食会を実施している。</li> <li>・本人の希望に沿ってお菓子などの買い物に行っている。</li> <li>・通院などで出掛ける際には、時間が許す限り、本人の希望に沿ってドライブや買い物にも活かせるようにしている。</li> </ul>		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己管理できる利用者がいないため、お金の所持はしてもらっていない。欲しい物や必要なものは家族や職員が購入している。</li> </ul>		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご自身で電話を掛けることは難しいが、電話したい、してほしいという要望がある場合は希望に添えるよう職員が支援している。</li> </ul>		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節ごとの作品や、レクリエーションで利用者自身が制作した作品や行事などの写真を展示している。温湿度計や空気清浄機、加湿器などを設置し、居心地のいい空間で過ごしていただけるよう努めている。</li> </ul>		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有スペースにソファを設置し、他の利用者やゆっくりと過ごせる居場所を提供している。</li> </ul>		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使い慣れた家具を設置し、家族作品や自己作品、誕生日のプレゼントカードなどを飾り、居心地のいい空間の提供に努めている。</li> </ul>		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室の扉に一人ひとり違った名前プレートを貼り、本人が確認しやすいようにしている。</li> <li>・滑り止めマットの設置、家具の配置の工夫など安全性には十分配慮している。</li> <li>・ベッドの高さを本人が立ち座りしやすい高さに調整している。また、上げ下げをした際にも元の高さが分かるよう目印を付けている。</li> </ul>		